



災害に備えるために

1. 災害とは何か？キーワードを考えよう

「災害」と聞いて何を思い浮かべますか？
まずは思いつくキーワードを挙げてみよう。



地震 津波 水害 がけ崩れ 火山噴火 異常気象 台風

2. キーワードについて本で調べてみよう

『グレタさんの訴えと水害列島日本』
岩佐 茂／著，岩渕 孝／著，宮崎 紗矢香／著
学習の友社 2020 （519//980）

日本各地で実際に起きた洪水や台風などの水害を
まとめるだけでなく、水害に至ってしまった経緯や原因、
今後取り組むべき課題などについても書かれています。



『トコトンやさしい地質の本』
藤原 治／編著，斎藤 眞／編著
日刊工業新聞社 2018 （455//69）

地質について、写真や図を用いてやさしく書かれており、「地質を見れば自然災害が
わかる」という章では、地震や津波のメカニズムについて知ることができます。



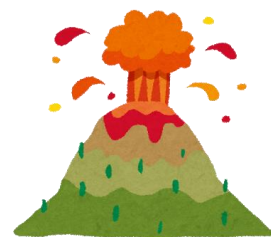
『実験で学ぶ 土砂災害』
土木学会地盤工学委員会斜面工学研究小委員会／編
土木学会 2015 （455/8/40）

土砂災害が発生する原因やその予測、防災対策、
避難方法などについて、模型実験で解説しています。

写真やイラストなどもふんだんに用いられており、
大変解りやすい資料です。

『火山の科学』 西川 有司／著
日刊工業新聞社 2020 (453/8/48)

火山はどうやってできるのか、どこにあるのかといったことから、噴火の仕組みや地震との関係、噴火の予知や防災についても学ぶことができます。



『図解でわかる14歳から知る気候変動』 インフォビジュアル研究所／著
太田出版 2020 (519//977)

気候変動は、私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを、豊富なイラストで説明しています。

巻末に索引があるので、気になるキーワードから調べることもできます。

『トコトンやさしい異常気象の本』 日本気象協会／編
日刊工業新聞社 2017 (451//225)

「雨」、「気温」、「海」など、様々な異常気象について章ごとにまとめられており、異常気象からの身の守り方や、今後の向き合い方についても書かれています。

3. インターネットで調べてみよう

本で調べる以外にインターネットのサイトで調べる方法もあります。
以下のサイトでは災害についてわかりやすく解説していますので参考にしてください。
(いずれの情報も2021年3月13日現在のものです)

◇福岡県立図書館 「防災・減災」の本&Webサイト
(https://www2.lib.pref.fukuoka.jp/?page_id=938)

当館が作成した、様々な災害に備えるための本やサイトを紹介したページです。
本の紹介記事からは、本の予約や関連記事を見ることができます。

◇首相官邸 防災の手引き
(<http://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/index.html>)

自然災害が発生した時に起こり得る事態や、その時の対応方法、災害に対する日ごろの備えなど地図やグラフ、イラストなどを使ってわかりやすく解説しています。

◇日本気象協会 (<http://www.tenki.jp/docs/note/bousai/>)

日本気象協会のサイトにある「万が一に備えて」では、地震や台風などの災害の知識、日ごろの備え、万が一の際の対応、万が一の際に役立つリンク集など役立つ情報を得ることができます。



◇福岡県防災ホームページ
(<http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/index.php>)

福岡県内の災害などの緊急情報を得ることができるほか、災害への備えなど防災に関する知識を得ることができます。

◇福岡市防災・危機管理情報 (<http://bousai.city.fukuoka.lg.jp/>)

福岡市の災害速報を得ることができるほか、雨量や河川の水位などの情報を得ることができます。また、福岡市の防災マップをダウンロードすることもできます。



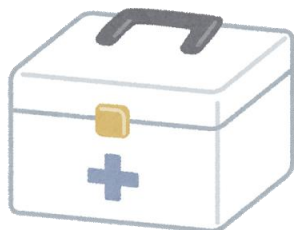
＜調べる時の注意事項＞



- ① 本に書いてあることも、インターネットの情報も正確なものとは限りません。必ず、複数の本、ウェブサイトなどで確認しましょう。
- ② 自分が調べた本は、そのタイトルや出版社、出版年を、インターネットで調べたサイトはURL、見た日などを必ず記録しておきましょう。
- ③ 青少年と暮らしの交流室には、調べもの用にインターネット情報を検索できるパソコンがあります。使用する際はカウンターへお尋ねください。

4. 災害に備える

①災害から身を守るには



『いのちを救う災害時医療』 森村 尚登／著
河出書房新社 2019 (498/89/54)

東日本大震災が起こった際に福島第一原発事故の現場に向かった医師が、当時の状況を克明に記した本です。

「中学生のみなさんに、伝えておきたい大事なこと」など、災害時にとるべき行動や考え方のヒントが詰まっています。

『わが家の防災ハンドブック』 山村 武彦／監修
家の光協会 2016 (369/3/283)

家族との連絡方法や非常食の準備、避難場所の確認などの日ごろの備えや、地震や津波などの自然災害が発生した場合の対応方法についてイラストなどを用いわかりやすく解説しています。

『地震のはなしを聞きに行く』
須藤 文音／文，下河原 幸恵／絵
偕成社 2013 (453//109)

東日本大震災で被災し、自らの家族も失った著者が、地震のメカニズムや歴史、地震への備えなどを専門家に尋ねに行きます。



②ボランティアに参加する

『ボランティアをやりたい!』 さだ まさし／編，風に立つライオン基金／編
岩波書店 2019 (081//42-910)

東日本大震災で被災しながらも、学校と地域の復興のシンボルにするために桜を植樹し育てる宮城県農業高等学校や、利根川の川岸から約1 kmにあるため、地震や豪雨に対する地域の防災に力を入れる埼玉県立栗橋北彩高等学校など、全国各地の高校生たちが行っているボランティア活動を紹介しています。

『高校生、災害と向き合う』 諏訪 清二／著
岩波書店 2011 (081//42-700)

全国で唯一「環境防災科」をもつ舞子高等学校の生徒たちの、被災者と心を通わせ、災害と向き合う姿を通して、これからの防災教育やボランティアのあり方を考えさせられる1冊です。



5. 小説から知る災害

『沖晴くんの涙を殺して』 額賀 滯／著 双葉社 2020 (F/又7/12)

病気で余命1年の宣告を受け、故郷に戻ってきた元・音楽教師の京香が出会ったのは、津波で家族を亡くすも、悲しみ・怒り・嫌悪・怖れの感情を死神に差し出したため、独りだけ海から生還し、色々な不思議な能力が身についたと言う高校生の沖晴でした。

合唱部の外部講師として母校で指導することになった京香と合唱部員の沖晴が、各々の生と死や感情と向き合い、変わっていく姿が、切なくも清々しく描かれています。

『黄泉がえりagain』 梶尾 真治／著 新潮社 2019 (F/カ112/3)



地震から2年ほどが経った熊本を舞台に、熊本出身の作者が描くのは、死者が生き返ると言う“黄泉がえり”。

死者たちは何を伝えたくて現世に戻ってきたのか？

登場人物たちが話す熊本弁も心地よく、前作とは違った角度で楽しめる1冊です。

『アポリア』 いとう みく／作 童心社 2016 (F/イ409/1)

「学校へは行かない」と宣言し、引きこもるようになった中学2年生の一弥たちを襲ったのは大地震と津波でした。

母親を助けられなかった一弥は、自分が母親を殺してしまったと思い悩んでしまいます。絶望の真ただ中にいる一弥の、成長と再生を描いた物語です。

文中に挿入されている被災地の写真からも、目を背けることができない作品です。